

しっぽの生命誌 ①

サルの仲間 カニクイザル

イヌがしっぽを元気に振る様子や、セキレイが長い尾を上げ下げするのを見ると、しっぽが心を表しているようで、私たちにもしっぽがあればとうらやましい気持ちになりませんか。おまけのようにも思えるしっぽですが、実は、生きもの多様な暮らしをととてもよく表しています。しっぽのある生きものをつくり、端っこに宿る知恵を身近に飾りましょう。



出典：
Gumert M.D. and Malaivijitnond S.
Am J Phys Anthropol 149:447 (2012)
Yao L. et al.
Mol Phylogenet Evol 116:227(2017)

写真提供：香田啓貴

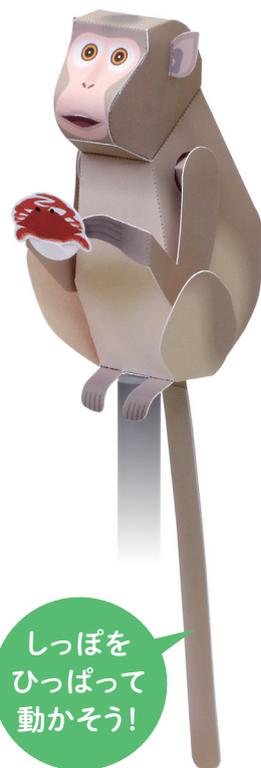
哺乳類のしっぽに注目すると、サルの仲間のしっぽは実にさまざまです。ヒトを含むしっぽをもたない類人猿とオナガザルの仲間は、ともに旧世界ザルに分類され、オナガザルには、その名のとおりの長いしっぽをもつもの、中くらいのしっぽのものや短いしっぽのニホンザルもいます。

カニクイザルは、オナガザルの仲間で、英語の名前は「長いしっぽのマカクサル」(long-tailed macaque)。体長よりも長いしっぽは、樹上で枝から枝へと飛び移るときや四足で歩くときにバランスをとるのに使います。東南アジアの広い地域に見られ、

森林から市街までさまざまな環境に暮らしています。

カニクイザルという名ですが、どちらかといえば植物食で、人里ではゴミ箱も漁る雑食性です。海辺では石を道具にして貝を割る動作が観察され、カニを含めて海の生きものも上手に食べることができます。

アフリカを出発した最初のホモ・サピエンスは、ユーラシアの海沿いを進んだという足取りがわかっており、ヒトもカニクイザルとともに海の恵みをとおして豊かな生き方を学んだかもしれません。できあがったカニクイザルを手に乗せて、しっぽでバランスをとる感覚を味わってみてはいかがでしょうか。

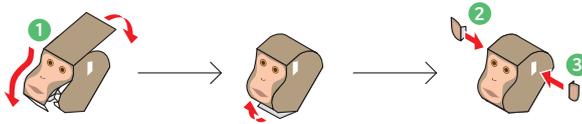


しっぽを
ひっぱって
動かそう!

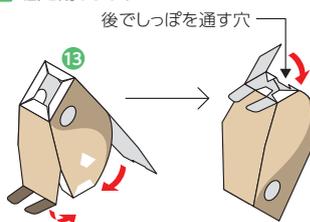
作り方

- 切り取り線にそって、カッターナイフやはさみでいねいに切り抜きます。
- 折り線にそって、鉄筆や芯を出していないシャープペンシルなど適度に先のとがったものを定規にあて、まっすぐ線を引き筋をつけます。
- 記号にしたがって折り曲げ、説明図を見ながらのりづけして組み立てます。細かい部分の組み立てには、ピンセットを使うと便利です。
- のり付けには木工用接着剤を使います。いったん小皿に出してから、つまようじを使って薄くむらなく塗りましょう。

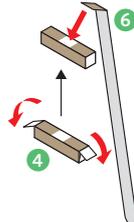
1 のりしろを一つずついねいに折り曲げ、顔と頭をきれいに丸めながら組み立てます。



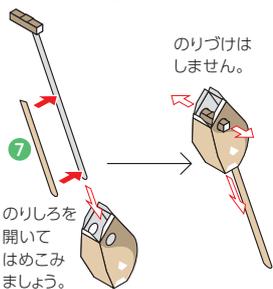
2 胴を組み立てます。最後にひっくり返して底を閉じます。



3 腕の中央にしっぽを貼ります。



4 しっぽの先を揃えて重ねて貼り合わせ、胴にしっぽと腕をはめこみます。



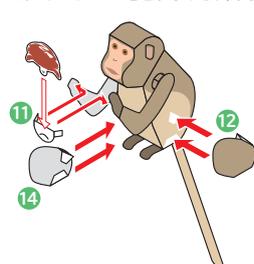
5 頭を取りつけ、腕の左右に丸いパーツを貼ります。



6 しっぽを下に引っぱった状態で、手のひらが口の前に来る角度で腕をのりつけします。



7 両脚を貼り、両手の内側に11をのりつけします。好きなエサを穴に差し込んで、しっぽでバランスをとりながら飾りましょう。



デザイン：坂 啓典(図工室)